

障がいに対する理解を深める研修・啓発活動講師団 ニュース

～障がいの有無にかかわらず、お互いに認め合い、思いやり、支え合う社会をつくるために～

No.4 2014.10.14



前回に引き続き、社会福祉法人太陽の家から「まちづくり出前トーク」の申し込みがあったので、職員研修に行ってきました。

平成26年9月16日（火）15:00～16:10

会場：太陽の家 集会室

受講者は、社会福祉法人太陽の家職員45人です。講師団からは、佐藤紘造さんと瀧口有香さんが出席して、障がいのある人の保護者、当事者という立場から精神障がいについて話をしました。

研修の流れ

- ① **障がいのある人が置かれている状況**（40分間）
 - 精神に障がいのある人やその保護者が置かれている実情を知ってもらいました
- ② **ともに生きる条例が果たす役割**（20分間）
 - 条例制定の背景と趣旨、条例の目的、共生社会の実現に向けた取組（差別の禁止、障がいに対する理解を深める、合理的配慮など）を知ってもらいました



障がいの『社会モデル』とは

障がいを「障がいは社会によってつくられるもの」と捉えることです。これとは別に、「障がいは個人の能力や機能によるもの」と捉えることを『医学モデル』と呼んでいます。

社会モデルは、「個人の機能障がい」と「社会」との関係に着目する考え方です。条例で定義する「障がい」は社会モデルで捉えたものです。

と も に 生 き る 条 例



発行：別府市福祉保健部障害福祉課

〒874-8511 別府市上野口町1番15号

TEL：0977-21-1413 FAX：0977-22-1780

E-mail：haw-hw@city.beppu.oita.jp

市ホームページ URL：http://www.city.beppu.oita.jp

【瀧口有香さんからの講話】



私は13年前に激しい幻覚・幻聴に襲われ、自分が自分でなくなりました。気が付いたときには、病院の鍵のかかるベッドの上でした。異常行動などはもちろん、こうして人と話ができるような状態ではなかったと家族から聞いています。

発病当時は1日40錠もの薬を飲み、長年副作用に苦しみました。やがて日常生活もできなくなり、食べて薬を飲んで眠くなり、倦怠感や脱力感もありました。次第に孤独感に襲われ、ときには精神衰弱状態にもなりました。とても不安でしたが、医師から「薬を止めることはできない」と言われ、飲み続けました。次第に手が震えるようになり、字が書けなくなりました。さらに体の揺れ、歩き方、目つき、顔つき、すべてが変わってしまいました。異常にのどの渴きがあり、多量に水分を取っていたことで水中毒になり、入院中倒れたこともあります。

このままではいけないと思いながら、家族には大変な思いをさせてしまいました。イライラして家族に当たり散らすことでしか当時は表現ができませんでした。そして、なかなか自分が病気になったことも受け入れられませんでした。退院した後もデイケアに通うのですが、納得ができず、そのうち仕事に就かなくてとは焦り、アルバイトをするようになりましたが、働いては調子を崩し、入退院の繰り返しでした。

苦しい日々が続いていたある日、自分に合う先生に出会うことができました。先生はとてもよく話を聞いてくれました。私は、心にあてる聴診器がないものかと先生に問いかけました。ぼちぼち話ができるようになり、みるみる心が軽くなって行きました。

一番苦しかったことは、自分の症状や状態を家族や先生に説明するのが難しかったことです。入院施設がないので、リハビリを懸命に行いました。当時は朝起きる、洗面して服を着替えて、昼間起きていて夜寝るということがとても難しかったです。当たり前のことが当たり前にできるようになることに大変な時間がかかってしまいました。

前向きになったり後ろ向きになったりしながら、少しずつ家事手伝いができるようになりました。

今の病院で3年が経ち、社会復帰をめざし、大分障害者職業センターで訓練を受けるようになりました。半年通い、オープンで清掃の仕事が少しできるようになりましたが、仕事を増やすことは再発の恐れもあり難しく、毎日仕事ができないので、家庭で生活リズムを整えるのは容易ではありませんでした。

今では星座オリオン（佐藤紘造さんが運営している就労継続支援B型事業所）の温かい職員と仲間仲間と5年になります。この5年間いろいろありました。清掃の仕事は負担が大きく、ドクターストップになりました。しかし、清掃の仕事で掃除機がけやトイレ掃除ができるようになったのは自分にとってとてもプラスになりました。

星座オリオンで次々に問題を抱え、どれだけ職員や仲間支えられたかわからないほどです。今では自分のペースで作業ができ、家庭的な雰囲気環境もよく、星座オリオンに来て本当によかったと心から思います。作業は竹製品の仕上げ、箱折りなどを行っています。苦手な作業もありますが、指先を動かすので脳に刺激を与えることができます。このほか、ボランティア活動、研修を兼ねた外での活動など、楽しい行事も盛りだくさんで、毎日がとても充実しています。

星座オリオンでの無農薬野菜の露天販売は、栽培したトマトなどが大変好評で、たくさんの人と交流ができ、とてもうれしい毎日です。しかし、体調のコントロールはもちろん、支えられながらの自己責任であること、自分の苦手な部分や悪いところに気が付き、治そうと思ってチャレンジしては失敗しました。そのうち、毎日の流れで作業に取り組んだり、臨機応変に動くことを覚えたりと、新しく慣れない作業に取り組んだことが、私生活の中でも役立ち、今までできなかったことができるようになり、毎日の作業に取り組んでよかったと思っています。

自分の足で立つ「自立」。なかなか難しいですが、自分の身の回りのことができるように努力を重ねた5年間でした。後ろを振り返るとフラッシュバックになり精神的に苦しくなりますが、これまでを振り返るとここまで来れたのは、一緒に病気と闘ってくれた両親、支えてくださった職員や仲間、病院の先生、多くの方々のおかげだと感謝しています。

まだまだ精神状態に波がありますが、これからも1日1日を大切に、できることから努力していこうと思います。病気になってしまいましたが、病気に負けない自分になっていきたいです。そして苦しいことがあっても、目の前のことからコツコツ努力して、乗り越えていくことこそ、親亡き後につながると前向きに考えて行こうと思います。いつの日か星座オリオンを卒業し、前に進んでいければと思います。